

ホーム柵や浸水対策を 地下鉄の最優先課題に

井上浩議員



筋線では0件です。

井上氏は、橋下前市政で民営化方針が決定されて以後、当初計画されていた御堂筋線全駅への可動式ホーム柵設置が心斎橋・天王寺両駅を除いてストップし、安全対策が停滞していることは大問題だと指摘。市営地下鉄を運営する8政令市のうち、仙台など4市で可動式ホーム柵を全駅設置していることを示しました。

「輸送力低下などの課題が未解決」として全駅設置に背を向ける交通局に対し井上氏は、心斎橋・天王寺両駅への可動式ホーム柵設置前後の御堂筋線の停車時間、運行本数などの変化を検証。「可動式ホーム柵の設置とダイヤの乱れに直接の因果関係はない。自動運転装置など技術革新を見通していたからこそ、当初の全駅設置計画も出た。それにストップをかけたのが民営化だ」と批判しました。

さらに民営化後の資金計画で可動式ホーム柵設置費用を見込んでいないのは重大だとして、「お客様第一主義で御堂筋線への全駅設置を進めるべきだ」と主張しました。

また井上氏が、河川氾濫浸水想定範囲内にある地下鉄駅のうち、浸水対策が未実施の55駅について質問。民営化後の新会社は、大阪市危機管理庁が作成したハザードマップ(被害予測地図)に基づき対策を行うことになっていないとし、「乗客・市民の安全を最優先にした取り組みを進めるべき」と求めました。